

宮城県公立高等学校

教育課程編成の手引

IV 各学科に共通する各教科

【地理歴史】

令和元年6月

宮 城 県 教 育 委 員 会
仙 台 市 教 育 委 員 会
石 巻 市 教 育 委 員 会

2 地理歴史科

(1) 改訂の趣旨

イ 基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な習得

三つの柱で示された資質・能力の育成全体を見通した上で、基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な習得が求められる。

ロ 「社会的な見方・考え方」を働かせた「思考力、判断力、表現力等」の育成

「社会的な見方・考え方」を働かせ、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想したりする学習の充実が求められる。

ハ 主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成

現実の社会的事象を扱うことのできる地理歴史科ならではのよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成が必要であり、子供たちに平和で民主的な国家及び社会の形成者としての自覚を涵養することが求められる。

(2) 教科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。【知識及び技能】
- (2) 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。【学びに向かう力、人間性等】

<目標改善のポイント>

学校教育法第30条第2項等の規定を踏まえ、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」という育成を目指す資質・能力の三つの目標が明確化された。

◆ 「社会的な見方・考え方」とは

- ・ 社会的な事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法（考え方）」
- ・ 地理領域の科目では、「社会的な事象の地理的な見方・考え方」として、「社会的な事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けたりすること」
- ・ 歴史領域の科目では「社会的な事象の歴史的な見方・考え方」として、「社会的な事象を時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりすること」

◆ 「課題を追究したり解決したりする活動」とは

- ・ 単元など内容や時間のまとまりを見通して学習課題を設定し、諸資料や調査活動などを通して調べたり、思考、判断、表現したりしながら、社会的な事象の特色や意味などを理解したり社会への関心を高めたりする学習

(3) 科目の編成と履修順序等の留意点

【改定後】

◎必履修科目

科目	標準単位数
歴史総合 ◎	2単位
世界史探究	3単位
日本史探究	3単位
地理総合 ◎	2単位
地理探究	3単位

【現行】

科目	標準単位数
世界史A	2単位
日本史A	2単位
世界史B	4単位
日本史B	4単位
地理A	2単位
地理B	4単位



<履修順序について>

- ・「地理総合」を履修した後に「地理探究」を選択履修すること。
- ・「歴史総合」を履修した後に「日本史探究」、「世界史探究」を選択履修すること。
- ・「地理総合」と「地理探究」を、「歴史総合」と「日本史探究」または「世界史探究」を同一学年で履修することは原則としてできない。

(4) 改訂の要点

イ 目標の改善

学校教育法第30条第2項の規定等を踏まえ、育成を目指す資質・能力を目標においても明確化した。

ロ 内容構成の改善

大項目をA, B, C…の順で、大項目を構成する中項目を(1), (2), (3)…の順で示され、さらに必要に応じてそれを細分した小項目が設定された。

ハ 小項目の設定

資質・能力の三つの柱に沿って「ア 知識及び技能」と「イ 思考力、判断力、表現力等」に関わる事項が示されているが、これは学習の順序を表すものではなく、学習の過程では「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を身に付ける学習が一体となって展開され、深い理解に至ることが重要である。

「歴史総合」、「日本史探究」、「世界史探究」の学習では、ア(ア)とイ(イ)の事項、ア(イ)とイ(イ)の事項、のように、各中項目内で対応する「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の事項が一体となり、それぞれ一つの学習のまとまりを構成している。このまとまりを、「小項目」と示される。その構造は次のとおりとなる。

アの事項の<a>を基に、イの事項の<c>に着目して、<d>主題を設定し、それに応じた「小項目全体に関わる問い」を学習上の課題として生徒に提示する。この「問い」を踏まえて<e>を考察し表現して、アのの理解に至るという構造となる

(5) 各科目の内容

イ 地理総合

(イ) 目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。

(ロ) 改善・充実の要点

- ① 「社会的事象の地理的な見方・考え方」に基づく学習活動の充実
- ② 「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開
- ③ 地図や地理情報システムを活用して育む汎用的で実践的な地理的技能
- ④ グローバルな視座から求められる自他の文化の尊重と国際協力
- ⑤ 我が国をはじめとする世界や生徒の生活圏における自然災害と防災
- ⑥ 持続可能な地域づくりのための地域調査と地域展望

(ハ) 内容構成

大項目	中項目	小項目
A 地図や地理情報システムで捉える現代世界	(1) 地図や地理情報システムと現代世界	ア (ア) (イ) (ウ) イ (ア) (イ)
B 国際理解と国際協力	(1) 生活文化の多様性と国際理解	ア (ア) (イ) イ (ア)
	(2) 地球的課題と国際協力	ア (ア) (イ) イ (ア)
C 持続可能な地域づくりと私たち	(1) 自然環境と防災	ア (ア) (イ) イ (ア)
	(2) 生活圏の調査と地域の展望	ア (ア) イ (ア)

(ニ) 内容の取扱い等

① 大項目の構成

Aは、「地理総合」の学習の導入として中学校までの学習成果を踏まえ、現代世界の地域構成を主な学習対象とし、その結び付きを地図やGISを用いて捉える学習などを通して、汎用的な地理的技能を習得すること。

Bは、Aの学習成果を踏まえ、世界の特色ある生活文化と地球的課題を主な学習対象とし、特色ある生活文化と地理的環境との関わりや地球的課題の解決の方向性を捉える学習などを通して、国際理解や国際協力の重要性を認識すること。

Cは、A及びBの学習成果を踏まえ、国内外の防災や生活圏の地理的な課題を主な学習対象とし、地域性を踏まえた課題解決に向けた取組の在り方を構想する学習などを通して、持続可能な地域づくりを展望すること。

② 中項目の構成

大項目Aの(1)は、位置や分布などに関わる視点に着目して、現代世界の地域構成とともに地図やGISの活用の仕方を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成するとともに、現代世界の地域構成の特色、地図やGISの役割や有用性などを理解し、そのために必要な技能を身に付けられるようにすること。

大項目Bの(1)は、場所や人間と自然環境との相互依存関係などに関わる視点に着目して、世界の人々の生活文化を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成するとともに、世界の人々の生活文化の多様性や変容、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などを理解できるようにすること。(2)は、空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、世界各地で見られる地球的課題を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成するとともに、地球的課題の傾向性や課題相互の関連性を大観し、課題解決を目指した各国の取組や国際協力の必要性などを理解できるようにすること。

大項目Cの(1)は、人間と自然環境との相互依存関係や地域などに関わる視点に着目して、地域性を踏まえた防災を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成するとともに、自然環境の特色と防災との関わりや、地域性を踏まえた防災の重要性などを理解し、そのために必要な技能を身に付けられるようにすること。(2)は、空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、生活圏の地理的な課題を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成するとともに、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などを理解できるようにすること。

(ホ) 指導計画の作成と指導上の配慮事項

① 中学校社会科との関連と指導内容の構成について

中学校社会科との関連を図るとともに、1の目標に即して基本的な事柄を基に指導内容を構成すること。

② 地理的技能について

地図の読図や作図、衛星画像や空中写真、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができるよう系統性に留意して計画的に指導すること。その際、教科用図書「地図」を十分に活用するとともに、地図や統計などの地理情報の収集・分析には、地理情報システムや情報通信ネットワークなどの活用を工夫すること。

③ 作業的で具体的な体験を伴う活動と地図を活用した言語活動の充実について

地図の読図や作図などを主として作業的で具体的な体験を伴う学習を取り入れるとともに、各項目を関連付けて地理的技能が身に付くよう工夫すること。また、地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、討論したりするなどの活動を充実させること。

④ 歴史的背景を踏まえることと、政治的、経済的、生物的、地学的な事象などの扱いについて

学習過程では取り扱う内容の歴史的背景を踏まえることとし、政治的、経済的、生物的、地学的な事象なども必要に応じて扱うことができるが、それらは空間的な傾向性や諸地域の特色を理解するのに必要な程度とすること。

⑤ 専門家などとの連携について

調査の実施や諸資料の収集に当たっては、専門家や関係諸機関などと円滑に連携・協働するなどして、社会との関わりを意識した活動を重視すること。

⑥ 日本の取扱いについて

各項目の内容に応じて日本を含めて扱うとともに、日本と比較し関連付けて考察するようにすること。

□ 地理探究

(イ) 目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。

(ロ) 改善・充実の要点

- ① 「社会的事象の地理的な見方・考え方」に基づく学習活動の充実
- ② 「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開
- ③ 大項目Cの前提としての系統地理的考察と地誌的考察
- ④ 「現代世界の系統地理的考察」における「交通・通信、観光」の項目化
- ⑤ 「現代世界におけるこれからの日本の国土像」を問う探究項目の充実

(ハ) 内容構成

大項目	中項目	小項目
A 現代世界の系統地理的考察	(1) 自然環境	ア (ア) イ (ア)
	(2) 資源、産業	ア (ア) イ (ア)
	(3) 交通・通信、観光	ア (ア) イ (ア)
	(4) 人口、都市・村落	ア (ア) イ (ア)
	(5) 生活文化、民族・宗教	ア (ア) イ (ア)
B 現代世界の地誌的考察	(1) 現代世界の地域区分	ア (ア) (イ) イ (ア)
	(2) 現代世界の諸地域	ア (ア) (イ) イ (ア)
C 現代世界におけるこれからの日本の国土像	(1) 持続可能な国土像の探究	ア (ア) イ (ア)

(ニ) 内容の取扱い等

① 大項目の構成

Aは、「地理総合」の学習成果を踏まえ、現代世界における地理的な諸事象を主な学習対象とし、その空間的な規則性、傾向性や関連する課題の要因を捉えるなどの学習を通して、現代世界

の諸事象の地理的認識とともに、系統地理的な考察の手法を身に付けること。

Bは、Aの学習成果を踏まえ、現代世界を構成する諸地域を主な学習対象とし、選択した地域の地域性と諸課題を捉える学習などを通して、現代世界の諸地域の地理的認識を深めるとともに、現代世界の諸地域を地誌的に考察する方法を身に付けること。

Cは、A及びBの学習成果を踏まえ、現代世界における日本の国土を主な学習対象とし、我が国が抱える地理的な諸課題の方向性や将来の国土の在り方を構想する学習などを通して、持続可能な国土像を探究すること。

② 中項目の構成

大項目Aの(1)は、場所や人間と自然環境との相互依存関係などに関わる視点に着目して、自然環境に関わる諸事象を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成するとともに、自然環境に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などを理解できるようにすること。(2)は、場所や空間的相互依存作用などに関わる視点に着目して、資源、産業に関わる諸事象を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成するとともに、資源、産業に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などを理解できるようにすること。(3)は、場所や空間的相互依存作用などに関わる視点に着目して、交通・通信、観光に関わる諸事象を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成するとともに、交通・通信、観光に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などを理解できるようにすること。(4)は、場所や空間的相互依存作用などに関わる視点に着目して、人口、都市・村落に関わる諸事象を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成するとともに、人口、都市・村落に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などを理解できるようにすること。(5)は、場所や空間的相互依存作用などに関わる視点に着目して、生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成するとともに、生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などを理解できるようにすること。

大項目Bの(1)は、位置や分布、地域などに関わる視点に着目して、世界や世界の諸地域の地域区分を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成するとともに、地域区分の方法や地域の概念、地域区分の意義などを理解し、そのために必要な技能を身に付けられるようにすること。(2)は、空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、現代世界の諸地域や地球的課題を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成するとともに、区分した諸地域に見られる地域的特色や地球的課題、地域の結び付き、構造や変容などを地誌的に考察する方法を理解できるようにすること。

大項目Cの(1)は、空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、現代世界におけるこれからの日本の国土像を多面的・多角的に探究し、表現する力を育成するとともに、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などを理解できるようにすること。

(ホ) 指導計画の作成と指導上の配慮事項

① 中学校社会科との関連と指導内容の構成について

1の目標に即して基本的な事柄を基に指導内容を構成すること。

② 地理的技能について

地図の読図や作図、衛星画像や空中写真、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができるよう系統性に留意して計画的に指導すること。その際、教科用図書「地図」を十分に活用するとともに、地図や統計などの地理情報の収集・分析には、「地理総合」における学習の成果を生かし、地理情報システムや情報通信ネットワークなどの活用を工夫すること。

③ 地図を活用した言語活動の充実について

地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、討論したりするなどの活動を充実させること。

④ 歴史的背景を踏まえることと、政治的、経済的、生物的、地学的な事象などの扱いについて

学習過程では取り扱う内容の歴史的背景を踏まえることとし、政治的、経済的、生物的、地学的な事象なども必要に応じて扱うことができるが、それらは空間的な傾向性や諸地域の特色を理解するのに必要な程度とすること。

⑤ 専門家などとの連携について

調査の実施や諸資料の収集に当たっては、専門家や関係諸機関などと円滑に連携・協働するなどして、社会との関わりを意識した活動を重視すること。

⑥ 日本の取扱いについて

内容のA及びBについては、各項目の内容に応じて日本を含めて扱うとともに、日本と比較し関連付けて考察するようにすること。

ハ 歴史総合

(イ) 目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相対的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

(ロ) 改善・充実の要点

- ① 「社会的事象の歴史的な見方・考え方」に基づく学習活動の充実
- ② 「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開
- ③ 単元や内容のまとまりを重視した学習の展開
- ④ 歴史の大きな変化に着目し、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉える内容の構成
- ⑤ 資料を活用し、歴史の学び方を習得する学習
- ⑥ 現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察する学習

(ハ) 内容構成

大項目	中項目	小項目
A 歴史の扉	(1)歴史と私たち (2)歴史の特質と資料	

B 近代化と私たち	(1)近代化への問い (2)結び付く世界と日本の開国 (3)国民国家と明治維新 (4)近代化と現代的な諸課題	(ア), (イ) (ア), (イ)
C 国際秩序の変化や大衆化と私たち	(1)国際秩序の変化や大衆化への問い (2)第一次世界大戦と大衆社会 (3)経済危機と第二次世界大戦 (4)国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	(ア), (イ) (ア), (イ)
D グローバル化と私たち	(1)グローバル化への問い (2)冷戦と世界経済 (3)世界秩序の変容と日本 (4)現代的な諸課題と展望	(ア), (イ) (ア), (イ)

(二) 内容の取扱い等

① 大項目の構成

内容のA, B, C及びDについては、この順序で取り扱うものとし、A, B及びC並びにDの(1)から(3)までの学習をすることにより、Dの(4)の学習が充実するように年間指導計画を作成することが求められる。

大項目Aは、「歴史総合」の導入として、高校の歴史学習への動機付けやその後の歴史学習の基本的技能等を身に付ける項目として設定されたものであり、日常生活や身近な地域などに見られる諸事象が、時間的な推移や空間的な結び付きの中で歴史とつながっていることや、資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解できるようにする。

大項目Bでは、産業社会と国民国家の形成を背景として、人々の生活や社会の在り方が変化したことを扱い、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解できるようにするものである。

大項目Cでは、政治、外交、経済、思想や文化などの様々な面で国際的な結び付きが強まり、国家間の関係性が変化したことや個人や集団の社会参加が拡大したことを背景として、人々の生活や社会の在り方が変化したことを扱い、現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解できるようにするものである。

大項目Dでは、科学技術の革新を背景に人・商品・資本・情報等が国境を越えて一層流動するようになり、人々の生活や社会の在り方が変化したことを扱い、現代的な諸課題の形成に関わるグローバル化の歴史を理解できるようにするとともに、考察、構想して探究し、現代的な諸課題を理解できるようにするものである。

② 中項目の構成

社会的事象の歴史的な見方・考え方や資料の取扱いに関する基本的な技能を活用して、生徒が資料から課題を見だし、自ら学習を深めることができるように、それぞれ中項目が設定されている。

【中項目(1)の学習の特徴（身近な資料から考察する、過去への問い）】

中項目(1)では、生徒にとって身近な生活や社会の変化を表す資料を取り上げて、情報を読み取ったりまとめたりして資料を活用する技能を身に付けるとともに、歴史の大きな変化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。

【中項目(2)及び(3)の学習の特徴（主題を踏まえた考察と理解）】

中項目(2)及び(3)では、主題を設定し、生徒の課題意識を深めたり、新たな課題を見いだしたりすることができるように、資料を活用して課題を考察する。

【中項目(4)の学習の特徴（歴史の大きな変化と現代的な諸課題）】

大項目B及びCの中項目(4)では、中項目(1)から(3)までの学習内容を踏まえ、「自由・制限」

「平等・格差」, 「対立・協調」, 「統合・分化」, 「開発・保全」など, 現代的な諸課題の形成に関わる歴史的な状況を考察するための観点を活用して主題を設定し, 現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察し, 表現する。

大項目Dの中項目(4)「現代的な諸課題の形成と展望」は, この科目のまとめとして位置付けられている。これまでの学習の成果を活用し, 生徒が持続可能な社会の実現を視野に入れ, 主題を設定し, 歴史的な経緯を踏まえた現代的な諸課題の理解とともに, 諸資料を活用して探究する活動を通し, その展望などについて考察, 構想し, それを表現できるようにする。

(ホ) 内容

A 歴史の扉

この大項目では, この科目の導入として, 中学校社会科歴史的分野の大項目A「歴史との対話」を踏まえ, 高校の歴史学習への動機付けと以後の学習に必要な歴史学習の基本的な技能や学び方を身に付ける項目として設定した。

(1) 歴史と私たち

私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に, 近代化, 国際秩序の変化や大衆化, グローバル化などの歴史の変化と関わらせて, 諸事象と日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し表現することにより, 私たちに関わる諸事象が, 日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解する学習を主なねらいとしている。

(2) 歴史の特質と資料

この中項目では, 日本や世界の様々な地域の人々の歴史的な営みの痕跡や記録である遺物, 文書, 図像などの資料を活用し, 複数の資料の関係や異同に着目して, 資料から読み取った情報の意味や意義, 特色などを考察し表現することにより, 資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解すること, 資料を取り扱う際の留意点に気付くことを主なねらいとしている。

B 近代化と私たち

この大項目では, 産業社会と国民国家の形成を背景として, 人々の生活や社会の在り方が変化したことを扱い, 世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉えて考察し, 現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解できるようにすることをねらいとしている。

(1) 近代化への問い

この中項目では, 中学校までの学習を踏まえ, 諸資料を活用して情報を読み取ったりまとめたりの技能を習得し, 人々の生活や社会の在り方が近代化に伴い変化したことについて考察するための問いを表現することをねらいとしている。

(2) 結び付く世界と日本の開国

この中項目では, アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり, 相互に関連付けたりするなどして, 18世紀の日本やその他のアジアにおける経済活動や社会の特徴, アジア各地域間の関係, アジア諸国と欧米諸国との関係などを考察し表現して, 18世紀のアジアの経済と社会を理解すること, アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを考察し表現して, 工業化と世界市場の形成を理解することをねらいとしている。

ア(ア)とイ(ア), ア(イ)とイ(イ)がそれぞれ結び付いて小項目を形成し, 学習が展開する。

(3) 国民国家と明治維新

この中項目では, アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり, 相互に関連付けたりするなどして, 政治変革の特徴, 国民国家の特徴や社会の変容などを考察し表現して, 立憲体制と国民国家の形成を理解すること, 帝国主義政策の特徴, 列強間の関係の変容などを考察し表現して, 列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解することをねらいとしている。

(4) 近代化と現代的な諸課題

この中項目では、近現代の歴史に存在した課題について、同時代の社会および人々がそれをどのように受けとめ、対処の仕方を講じたのかを諸資料を活用して考察し、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解することをねらいとしている。さらに、同時代における対処にもかかわらず、現在においても対応が求められる課題として残存していることに気付くように、指導を工夫することが大切である。

内容のA及びBの(1)から(3)までの学習などを基に、自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点から主題を設定し、諸資料を活用して、追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

C 国際秩序の変化や大衆化と私たち

政治、外交、経済、思想や文化などの様々な面で国際的な結び付きが強まり、国家間の関係性が変化したことや個人や集団の社会参加が拡大したことを背景として、人々の生活や社会の在り方が変化したことを扱い、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉えて考察し、現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解できるようにすることをねらいとしている。

(1) 「国際秩序の変化や大衆化への問い」

中学校までの学習を踏まえ、諸資料を活用して情報を読み取ったりまとめたりする技能を習得し、国際秩序の変化や、人々の生活や社会の在り方が大衆化に伴い変化したことについて考察するための問いを表現する学習を行う。

(2) 「第一次世界大戦と大衆社会」

日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解できるようにする。

(3) 「経済危機と第二次世界大戦」

日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、国際協調体制の動揺、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解できるようにする。

(4) 「国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題」

現代的な諸課題につながる歴史的な観点から主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し、現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解できるようにする。

内容のA及びCの(1)から(3)までの学習などを基に、自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点から主題を設定し、諸資料を活用して、追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

D グローバル化と私たち

この大項目では、科学技術の革新を背景に人・商品・資本・情報等が国境を越えて一層流動するようになり、人々の生活と社会の在り方が変化したことを扱い、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉えて考察し、現代的な諸課題の形成に関わるグローバル化の歴史を理解できるようにするとともに、考察、構想して探究し、現代的な諸課題を理解できるようにすることをねらいとしている。

(1) 「グローバル化への問い」

中学校までの学習を踏まえ、諸資料を活用して情報を読み取ったりまとめたりする技能を習得し、人々の生活や社会の在り方がグローバル化に伴い変化したことについて考察するための問いを表現する学習を行う。

(2) 「冷戦と世界経済」

日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、国際政治の

変容，世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解できるようにする。

(3) 「世界秩序の変容と日本」

日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，市場経済の変容と課題，冷戦終結後の国際政治の変容と課題とを理解できるようにする。

(4) 「現代的な諸課題の形成と展望」

この科目のまとめとして位置付けられている。これまでの学習を踏まえ，持続可能な社会の実現を視野に入れ，生徒が自ら主題を設定して，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，主題について多面的・多角的に考察，構想し，現代的な諸課題を理解することをねらいとしている。

(4)については，この科目のまとめとして位置付けること。その際，Bの(4)及びCの(4)の内容を更に深めたり，Bの(4)及びCの(4)とは異なる観点を取り上げたりして，この科目の学習を振り返り適切な主題を設定すること。

(A) 指導計画の作成と指導上の配慮事項

① 中学校社会科との関連と指導内容の構成について

この科目では，中学校までの学習との連続性に留意して諸事象を取り上げることにより，生徒が興味・関心をもって近現代の歴史を学習できるように指導を工夫すること。その際，近現代の歴史の変化を大観して理解し，考察，表現できるようにすることに指導の重点を置き，個別の事象のみの理解にとどまることのないよう留意すること。

② 時間的・空間的な捉え方について

歴史に関わる諸事象については，地理的条件と関連付けて扱うとともに，特定の時間やその推移及び特定の空間やその広がりの中で生起することを踏まえ，時間的・空間的な比較や関連付けなどにより捉えられるよう指導を工夫すること。

③ 近現代の歴史と現代的な諸課題との関わりの考察について

近現代の歴史と現代的な諸課題との関わりを考察する際には，政治，経済，社会，文化，宗教，生活などの観点から諸事象を取り上げ，近現代の歴史を多面的・多角的に考察できるようにすること。また，過去の視点のみで一面的に現在を捉えたり，現在の視点のみで一面的に過去を捉えたりすることがないよう留意すること。

④ 諸資料の活用と関係諸機関との連携について

年表や地図，その他の資料を積極的に活用し，文化遺産，博物館や公文書館，その他の資料館などを調査・見学したりするなど，具体的に学ぶよう指導を工夫すること。その際，歴史に関わる諸資料を整理・保存することの意味や意義に気付くようにすること。また，科目の内容に係る専門家や関係諸機関などとの円滑な連携・協働を図り，社会との関わりを意識した指導を工夫すること。

⑤ 活用する資料の選択について

活用する資料の選択に際しては，生徒の興味・関心，学校や地域の実態などに十分配慮して行うこと。

⑥ 近現代の学習について

指導に当たっては，客観的かつ公正な資料に基づいて，事実の正確な理解に導くとともに，多面的・多角的に考察し公正に判断する能力を育成すること。その際，核兵器などの脅威に着目させ，戦争や紛争などを防止し，平和で民主的な国際社会を実現することが重要な課題であることを認識するよう指導を工夫すること。

二 日本史探究

(イ) 目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

(ロ) 改善・充実の要点

- ① 「社会的事象の歴史的な見方・考え方」に基づく学習活動の充実
- ② 「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開
- ③ 単元や内容のまとまりを重視した学習の展開
- ④ 「歴史の解釈、説明、論述」を通じた知識、概念の深い理解と思考力、判断力、表現力等の育成の一層の重視
- ⑤ 資料を活用し、歴史の学び方を習得する学習
- ⑥ 歴史的経緯を踏まえた現代の日本の課題の探究

(ハ) 内容構成

大項目	中項目	小項目
A 原始・古代の日本と東アジア	(1) 黎明期の日本列島と歴史的環境 (2) 歴史資料と原始・古代の展望 (3) 古代の国家・社会の展開と画期	(7), (1) (7) (7), (1)
B 中世の日本と世界	(1) 中世への転換と歴史的環境 (2) 歴史資料と中世の展望 (3) 中世の国家・社会の展開と画期	(7), (1) (7) (7), (1)
C 近世の日本と世界	(1) 近世への転換と歴史的環境 (2) 歴史資料と近世の展望 (3) 近世の国家・社会の展開と画期	(7), (1) (7) (7), (1)
D 近現代の地域・日本と世界	(1) 近代への転換と歴史的環境 (2) 歴史資料と近代の展望 (3) 近現代の地域・日本と世界の画期と構造 (4) 現代の日本の課題の探究	(7), (1) (7) (7), (1), (7), (1), (1) (7)

(二) 内容の取扱い等

① 大項目の構成

内容のA, B, C及びDは, この順序で扱うこと。また, 「歴史総合」で学習した歴史の学び方を活用すること。

大項目AからCまでの前近代の学習では, 「歴史総合」で育んだ「歴史の学び方」を活用しつつ, 多様な資料を効果的に活用して, 問いや仮説を立てて歴史を考察, 表現し, 我が国の歴史の展開や伝統と文化への理解を深める学習, さらに大項目Dの近現代の学習では, 「歴史総合」で獲得した概念やこの科目の前近代の学習とのつながり, 前近代の学習で成長させた歴史を考察する力を活用し, 歴史に関わる諸事象相互の関係性や, 地域と日本, 世界との関係性などについて整理して構造的に理解し, さらに現代の日本の諸課題について多面的・多角的に考察, 構想する学習を設定している。

② 中項目の構成

大項目A, B, C及びDでは, それぞれの中項目(1)から(3)までが, 以下のように結び付き, 一連の学習の展開をもった構造となっている。

【中項目(1)】

時代の転換を取り上げ, 対象となる時期の我が国を巡る対外的な環境や交流などや, 中学校での学習を踏まえた国内の時代の特色の理解を基に, 前の時代との比較などを通して時代の転換について考察して, 時代の特色を探究するための筋道や学習の方向性を導く時代を通観する問いを表現する。

【中項目(1)の学習の特徴】

内容のA, B, C及びDのそれぞれの(1)については, 対外的な環境の変化や国内の諸状況の変化などを扱い, 時代の転換を理解できるようにすること。それぞれの(1)のイの(i)については, アの理解に加え, 中学校社会科歴史的分野における学習の成果を活用するなどして, 対象となる時代の特色を考察するための時代を通観する問いが表現できるよう指導を工夫すること。

【中項目(2)】

時代の特色を示す資料を活用して, (1)で表現した「時代を通観する問い」を成長させ, 時代の特色について, (3)の学習への見通しを立てて探究的な学びに向かうための仮説を表現する。

【中項目(2)の学習の特徴】

内容のA, B, C及びDのそれぞれの(2)については, 政治や経済, 社会, 生活や文化, 国際環境など, 各時代の特色を生徒が読み取ることができる複数の適切な資料を活用し, それぞれの(1)で表現した問いを踏まえ, 中学校社会科歴史的分野における学習の成果を活用するなどして, 対象となる時代の特色について, 生徒が仮説を立てることができるよう指導を工夫すること。

【中項目(3)】

中項目(1)及び(2)で表現された時代を通観する問いや仮説を踏まえ, 資料を活用して, 各時代の歴史の展開について, 事象の意味や意義, 関係性などを考察し, 歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期を表現する。

【中項目(3)の学習の特徴】

内容のA, B, C及びDのそれぞれの(3)については, それぞれの(2)で表現した仮説を踏まえて主題を設定すること。その際, 資料を活用し, 事象の意味や意義, 事象相の関係性などを考察できるよう指導を工夫すること。

【中項目(4)の学習の特徴】

大項目Dには中項目(4)が設定されている。これは「日本史探究」のまとめとして, 現代の日本の課題の形成に関わる歴史と展望について, 多面的・多角的に考察, 構想し, その結果を表現する学習である。

(木) 内容

A 原始・古代の日本と東アジア

この大項目では、人類が日本列島で生活を営み始めた時代から平安時代までを扱い、原始・古代がどのような時代であったかを東アジア世界の動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解できるようにすることをねらいとしている。

(1) 黎明期の日本列島と歴史的環境

この中項目では、旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立にいたる時期の日本列島の歴史的環境と文化の形成とを関連付けて時代の転換を理解し、原始社会の特色や古代の国家や社会との関わりについて多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現することをねらいとしている。

(2) 歴史資料と原始・古代の展望

この中項目では、資料から情報を収集して読み取る技能を身に付けるとともに、読み取った情報から原始・古代の特色についての仮説を表現することを通じて、中項目(3)に向けて、見通しをもった学習を展開できるようにすることがねらいである。見通しをもった学習を展開できるようにすることがねらいである。

(3) 古代の国家・社会の展望と画期

この中項目では、(1)で学んだ原始社会の特色や古代の国家や社会との関わりや時代を通観する問い、(2)で表現した古代を展望する仮説を踏まえ、資料を扱う技能を活用し、古代の国家や社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、古代がどのような時代であったかを理解するとともに、思考力、判断力、表現力等の育成を図ることをねらいとしている。

B 中世の日本と世界

この大項目では、平安時代末から戦国時代までを扱い、中世がどのような時代であったかを東アジアやユーラシアの動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解できるようにすることをねらいとしている。

(1) 中世への転換と歴史的環境

この中項目では、院政期から武家政権成立期の歴史の展開と歴史的環境とを関連付けて時代の転換を理解し、中世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現することをねらいとしている。

(2) 歴史資料と中世の展望

この中項目では、資料から情報を収集して読み取る技能を身に付けるとともに、読み取った情報から中世の特色についての仮説を表現することを通じて、中項目(3)に向けて、見通しをもった学習を展開できるようにすることがねらいである。

(3) 中世の国家・社会の展望と画期

この中項目では、(1)で学んだ古代から中世への転換の理解や時代を通観する問い、(2)で表現した中世を展望する仮説を踏まえ、資料を扱う技能を活用し、中世の国家や社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、中世がどのような時代であったかを理解するとともに、思考力、判断力、表現力等の育成を図ることをねらいとしている。

C 近世の日本と世界

この大項目では、安土桃山時代から江戸時代までを扱い、近世がどのような時代であったかを世界の動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解することをねらいとしている。

(1) 近世への転換と歴史的環境

この中項目では、織豊政権の成立前後からの歴史の展開と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し、近世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現することをねらいとしている。

(2) 歴史資料と近世の展望

この中項目では、資料から情報を収集して読み取る技能を身に付けるとともに、読み取った情報から近世の特色についての仮説を表現することを通じて、中項目(3)に向けて、見通しをもった学習を展開できるようにすることがねらいである。

(3) 近世の国家・社会の展望と画期

この中項目では、(1)で学んだ中世から近世への転換の理解や時代を通観する問い、(2)で表現した近世を展望する仮説を踏まえ、資料を扱う技能を活用し、近世の国家や社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、近世がどのような時代であったかを理解するとともに、思考力、判断力、表現力等の育成を図ることをねらいとしている。

D 近現代の地域・日本と世界

この大項目では、近世の幕末期から現代までを扱う。今回の改訂で設置された「歴史総合」の学習を踏まえた、世界の情勢の変化とその中における日本の相互の関係や、日本の近現代の歴史を、多面的・多角的に考察し理解すること、それらを踏まえて、現代の日本の課題を考察、構想することをねらいとしている。

(1) 近代への転換と歴史的環境

この中項目では、幕末から近代初頭の時期の歴史の展開と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し、近代の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問い表現することをねらいとしている。

(2) 歴史資料と近代の展望

この中項目では、資料から情報を収集して読み取る技能を身に付けるとともに、読み取った情報から近代の特色についての仮説を表現することを通じて、中項目(3)に向けて、見通しをもった学習を展開できるようにすることがねらいである。

(3) 近現代の地域・日本と世界の画期と構造

この中項目では、(1)で学んだ近世から近代への転換の理解や時代を通観する問い、(2)で表現した近代を展望する仮説を踏まえるとともに、「歴史総合」での学習の成果を活用して、近現代の地域・日本と世界の相互の関係を構造的に整理し、多様な視点から歴史に関わる諸事象について深い理解を図ることをねらいとしている。

(A) 指導計画の作成と指導上の配慮事項

① 国際環境や地理的条件などとの関連について（内容の取扱いの(1)のア）

我が国の歴史と文化について各時代の国際環境や地理的条件などと関連付け、世界の中の日本という視点から考察できるよう指導を工夫すること

② 中学校社会科との関連と指導内容の構成について（内容の取扱いの(1)のイ）

この科目では、中学校までの学習や「歴史総合」の学習との連続性に留意して諸事象を取り上げることにより、生徒が興味・関心をもって我が国の歴史の展開を学習できるよう工夫すること。また、各時代の特色を総合的に考察する学習及び前後の時代を比較してその移り変わりを考察する学習の充実を図ること。

③ 諸資料の活用と関係諸機関との連携について（内容の取扱いの(1)のウ）

年表や地図、その他の資料を積極的に活用し、地域の文化遺産、博物館や公文書館、その他の資

料館などを調査・見学したりするなど、具体的に学ぶよう指導を工夫すること。その際、歴史に関わる諸資料を整理・保存することの意味や意義、文化財保護の重要性に気付くようにすること。また、科目の内容に関係する専門家や関係諸機関などとの円滑な連携・協働を図り、社会との関わりを意識した指導を工夫すること。

④ 活用する資料の選択について（内容の取扱いの(1)のエ）

活用する資料の選択に際しては、生徒の興味・関心、学校や地域の実態などに十分配慮して行うこと。

⑤ 近現代の学習について（内容の取扱いの(1)のオ）

近現代史の指導に当たっては、客観的かつ公正な資料に基づいて、事実の正確な理解に導くとともに、多面的・多角的に考察し公正に判断する能力を育成すること。その際、核兵器などの脅威に着目させ、戦争や紛争などを防止し、平和で民主的な国際社会を実現することが重要な課題であることを認識するよう指導を工夫すること。

⑥ 「歴史総合」との関連について（内容の取扱いの(1)のカ）

近現代史の指導に当たっては、「歴史総合」の学習の成果を踏まえ、より発展的に学習できるよう留意すること。

⑦ 伝統や文化の学習について（内容の取扱いの(1)のキ）

文化に関する指導に当たっては、各時代の文化とそれを生み出した時代的背景との関連、外来の文化などとの接触や交流による文化の変容や発展の過程などに着目させ、我が国の伝統と文化の特色とそれを形成した様々な要因を総合的に考察できるよう指導を工夫すること。衣食住や風習・信仰などの生活文化についても、時代の特色や地域社会の様子などと関連付け、民俗学や考古学などの成果の活用を図りながら扱うようにすること。

⑧ 地域社会の歴史と文化の学習について（内容の取扱いの(1)のク）

地域社会の歴史と文化について扱うようにするとともに、祖先が地域社会の向上と文化の創造や発展に努力したことを具体的に理解させ、それらを尊重する態度を育てるようにすること。

ホ 世界史探究

(イ) 目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

(ロ) 改善・充実の要点

- ① 「社会的事象の歴史的な見方・考え方」に基づく学習活動の充実
- ② 「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開

- ③ 単元や内容のまとまりを重視した学習の展開
- ④ 世界の歴史の大きな枠組みと展開を捉える内容の構成
- ⑤ 資料を活用し、歴史の学び方を習得する学習
- ⑥ 歴史的経緯を踏まえた地球世界の課題の探究

(ハ) 内容構成

大項目	中項目	小項目
A 世界史へのまなざし	(1) 地球環境から見る人類の歴史	(ア)
	(2) 日常生活から見る世界の歴史	(ア)
B 諸地域の歴史的特質の形成	(1) 諸地域の歴史的特質への問い	(ア)
	(2) 古代文明の歴史的特質	(ア)
	(3) 諸地域の歴史的特質	(ア), (イ), (ウ)
C 諸地域の交流・再編	(1) 諸地域の交流・再編への問い	(ア)
	(2) 結び付くユーラシアと諸地域	(ア), (イ)
	(3) アジア諸地域とヨーロッパの再編	(ア), (イ)
D 諸地域の結合・変容	(1) 諸地域の結合・変容への問い	(ア)
	(2) 世界市場の形成と諸地域の結合	(ア), (イ)
	(3) 帝国主義とナショナリズムの高揚	(ア), (イ)
	(4) 第二次世界大戦と諸地域の変容	(ア), (イ)
E 地球世界の課題	(1) 国際機構の形成と平和への模索	(ア)
	(2) 経済のグローバル化と格差の是正	(ア)
	(3) 科学技術の高度化と知識基盤社会	(ア)
	(4) 地球世界の課題の研究	(ア)

(ニ) 内容の取扱い等

① 大項目の構成

内容のA, B, C, D及びEについては、この順序で取り扱うものとし、A, B, C 及びD並びにEの(1)から(3)までの学習をすることにより、Eの(4)の学習が充実するように年間指導計画を作成すること。また、「歴史総合」で学習した歴史の学び方を活用すること。

大項目Aは、この科目の導入として位置付けられており、中学校社会科や「歴史総合」の学習を踏まえ、地球環境と人類の歴史との関わりや身の回りの事象と歴史との関わりを考察し、世界史学習の意味や意義を理解するよう内容が構成されている。大項目BからDは、「歴史総合」で学習した「資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能」や「問いを表現する」学習などの成果を踏まえて、世界の歴史の大きな枠組みと展開を構造的に理解することができるように、歴史を捉える切り口である観点に基づいて考察し生徒が問いを表現して、課題意識や学習の見通しをもたせつつ、その後の学習が展開する内容となっている。大項目Eは、生徒がこれまでに習得した知識や技能を活用して、歴史的に形成された地球世界の課題を主体的に探究する活動を通して地球世界の課題を理解する内容となっている。

② 中項目の構成

大項目B, C及びDでは、社会的な事象の歴史的な見方・考え方や資料の取扱いに関する基本的な技能を活用して、生徒が資料から課題を見だし、自ら学習を深めることができるように、それぞれ中項目が設定されている。

【中項目(1)の学習の特徴】

中項目(1)では、生徒の学習意欲を喚起する具体的な事例を取り上げ、諸資料を活用し情報を読み

取ったりまとめたりする技能を身に付けるとともに、諸地域の歴史的特質、諸地域の交流・再編、諸地域の結合・変容を読み解く観点について考察し、問いを表現する。

【中項目(2)、(3)及び(4)の学習の特徴】

中項目(2)、(3)及び(4)では、主題を設定し、生徒の課題意識を深めたり、新たな課題を見いだしたりすることができるように、資料を活用して課題を考察する。主題の設定に当たっては、中項目(1)の生徒が表現した問いを踏まえ、学習のねらいに則した考察を導くように留意する。

＜小項目の設定（事項ア「知識及び技能」と事項イ「思考力、判断力、表現力等」の関係）＞

「世界史探究」の学習では、ア(ア)とイ(イ)の事項、ア(イ)とイ(イ)の事項、のように、各中項目内で対応する「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の事項が一体となり、それぞれ一つの学習のまとまりを構成している。

＜事象に関わる学習と「問い」の構造＞

小項目の主題を基にした「小項目全体に関わる問い」を踏まえ、「事象の推移や展開を考察し理解を促すための課題（問い）」を設定し、さらに「事象を比較したり相互に関連付けたりして考察し、追究を促すための課題（問い）」を設定して考察「世界史探究」では、学習全般において課題（問い）を設定し追究する学習が求められている。この学習において重要であるのは、第一に課題（問い）の設定であり、第二に課題（問い）の追究を促す資料の活用である。

＜課題（問い）の設定と資料の取扱い＞

「世界史探究」では、学習全般において課題（問い）を設定し追究する学習が求められる。この学習において重要であるのは、第一に課題（問い）の設定であり、第二に課題（問い）の追究を促す資料の活用である。

(ホ) 内容

A 世界史へのまなざし

この大項目では、この科目の導入として、人類の生存基盤をなす自然界に見られる諸事象や日常生活に見られる諸事象を扱い、地球環境と人類の歴史との関わりや、身の回りの事象と歴史との関わりを考察し、世界史を時間と空間の相で理解することをねらいとしている。

(1) 地球環境から見る人類の歴史

この中項目では、世界史学習の導入として、地球の誕生以降の歴史における人類の歴史の位置と人類の特性を考察し表現する学習活動を通して、人類の歴史と地球環境との関わりを理解することをねらいとしている。

(2) 日常生活から見る歴史

この中項目では、世界史学習の導入として、衣食住、家族、教育、余暇などの身の回りの諸事象から適切な事例を取り上げ、身の回りの諸事象と世界の歴史との関連性を考察し表現する活動を通して、私たちの日常生活が世界の歴史とつながっていることを理解することをねらいとしている。

B 諸地域の歴史的特質の形成

この大項目では、歴史的に形成された諸地域の多様性を、諸資料を比較したり、関連付けたりして読み解き、多面的・多角的に考察し表現する活動を通して、諸地域の歴史的特質の形成を理解することをねらいとしている。

(1) 諸地域の歴史的特質への問い

この中項目は、諸資料を活用し情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けるとともに、諸地域の歴史的特質を読み解く観点について考察し表現する学習活動を通して見いだした問いを表現することをねらいとしている。

(2) 古代文明の歴史的特質

この中項目は、概ね農耕・牧畜の起こりから各地に古代文明が形成される頃までを総合的に扱い、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを考察したり表現したりして、古代文明の歴史的特質を理解することをねらいとしている。

(3) 諸地域の歴史的特質

この中項目では、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、唐の統治体制と社会や文化の特色、唐と近隣諸国との関係、遊牧民の社会の特徴と周辺諸地域との関係、南アジアと東南アジアにおける宗教や文化の特色、東南アジアと周辺諸地域との関係、西アジアと地中海周辺の諸国家の社会や文化の特色、キリスト教とイスラームを基盤とした国家の特徴などを考察したり表現したりして、東アジアと中央ユーラシア、南アジアと東南アジア、西アジアと地中海周辺の歴史的特質をそれぞれ理解することをねらいとしている。

C 諸地域の交流・再編

この大項目では、諸地域の複合的・重層的なつながりを、諸資料を比較したり、関連付けたりして読み解き、多面的・多角的に考察し表現する活動を通して、諸地域の交流・再編を構造的に理解することをねらいとしている。

(1) 諸地域の交流・再編への問い

この中項目は、諸資料を活用し情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けるとともに、諸地域の交流・再編を読み解く観点について考察し表現する学習活動を通して見いだした問いを表現することをねらいとしている。

(2) 結び付くユーラシアと諸地域

この中項目では、日本の動向も視野に入れて、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、諸地域へのイスラームの拡大の要因、ヨーロッパの社会や文化の特色、中国社会の特徴やモンゴル帝国が果たした役割などを考察したり表現したりして、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりや構造的に理解すること、また、アジア海域での交易の特徴、ユーラシアとアメリカ大陸間の交易の特徴とアメリカ大陸の変容などを考察したり表現したりして、諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出を構造的に理解することをねらいとしている。

(3) アジア諸地域とヨーロッパの再編

この中項目では、日本の動向も視野に入れて、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、諸帝国の統治の特徴、アジア諸地域の経済と社会や文化の特色、日本の対外関係の特徴などを考察したり表現したりして、アジアの諸地域の特質を構造的に理解すること、また、宗教改革の意義、大西洋両岸諸地域の経済的連関の特徴、主権国家の特徴と経済活動との関連、ヨーロッパの社会や文化の特色などを考察したり表現したりして、主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解することをねらいとしている。

D 諸地域の結合・変容

この大項目では、地球規模での一体化と相互依存のさらなる強まりを、諸資料を比較したり、関連付けたりして読み解き、多面的・多角的に考察し表現する活動を通して、諸地域の結合・変容を構造的に理解することをねらいとしている。

(1) 諸地域の結合・変容への問い

この中項目は、諸資料を活用し情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けるとともに、諸地域の結合・変容を読み解く観点について考察し表現する学習活動を通して見いだした問いを表現することをねらいとしている。

(2) 世界市場の形成と諸地域の結合

この中項目では、日本の動向も視野に入れて、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、産業革命や環大西洋革命の意味や意義、自由主義とナショナリズムの特徴、南北アメリカ大陸の変容、労働力の移動を促す要因、イギリスの覇権の特徴、アジア諸国の変容の地域的な特徴などを考察したり表現したりして、国民国家と近代民主主義社会の形成、世界市場の形成とアジア諸国の変容を構造的に理解することをねらいとしている。

(3) 帝国主義とナショナリズムの高揚

この中項目では、日本の動向も視野に入れて、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、世界経済の構造的な変化、列強の帝国主義政策の共通点と相違点、アジア諸国のナショナリズムの特徴、第一次世界大戦後の国際協調主義の性格、アメリカ合衆国の台頭の要因、アジア・アフリカのナショナリズムの性格などを考察したり表現したりして、世界分割の進展とナショナリズムの高まり、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解することをねらいとしている。

(4) 第二次世界大戦と諸地域の変容

この中項目では、日本の動向も視野に入れて、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、世界恐慌に対する諸国家の対応策の共通点と相違点、ファシズムの特徴、第二次世界大戦に向かう国際関係の変化の要因、第二次世界大戦中の連合国による戦後構想と大戦後の国際秩序との関連、アジア諸国の独立の地域的な特徴などを、考察したり表現したりして、国際関係の緊張と対立、第二次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解することをねらいとしている。

E 地球世界の課題

この大項目では、「地球世界の課題」を扱い、諸資料を比較したり、関連付けたりして読み解き、探究する活動を通して、歴史的に形成された地球世界の課題を理解することをねらいとしている。

(1) 国際機構の形成と平和への模索

この中項目では、主題を設定し、諸資料を比較したり、関連付けたりして読み解き、国際連盟と国際連合との共通点と相違点、冷戦下の紛争解決と冷戦後の紛争解決との共通点と相違点、紛争と経済や社会の変化との関連性などを考察したり表現したりして、紛争解決の取組と課題を理解できるようにすることをねらいとしている。

(2) 経済のグローバル化と格差の是正

この中項目では、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、先進国による経済援助や経済を成長させた地域の特徴、諸地域間の経済格差や各国内の経済格差の特徴、経済格差と政治・社会の変化との関連性などを考察したり表現したりして、格差是正の取組と課題を理解できるようにすることをねらいとしている。

(3) 科学技術の高度化と知識基盤社会

この中項目では、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、現代の科学技術や文化の歴史的な特色、第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを考察したり表現したりして、知識基盤社会の展開と課題を理解することをねらいとしている。

(4) 地球世界の課題の探究

この中項目では、「(1)国際機構の形成と平和への模索」、「(2)経済のグローバル化と格差の是正」、「(3)科学技術の高度化と知識基盤社会」で学習した事項を参考にして、持続可能な社会の実現を視野に入れ、「地球世界の課題の形成に関わる」主題について、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、多面的・多角的に考察、構想して探究し、地球世界の課題を理解することをねらいとしている。

(A) 指導計画の作成と指導上の配慮事項について

① 中学校社会との関連と指導内容の構成について（3 内容の取扱い(1)のア）

この科目では、中学校までの学習や「歴史総合」の学習との連続性に留意して諸事象を取り上げることにより、生徒が興味・関心をもって世界の歴史を学習できるよう指導を工夫すること。その際、世界の歴史の大きな枠組みと展開を構造的に理解し、考察、表現できるようにすることに指導の重点を置き、個別の事象のみの理解にとどまることのないように留意すること。

② 時間的・空間的な捉え方について（3 内容の取扱い(1)のイ）

歴史に関わる諸事象については、地理的条件と関連付けて扱うとともに、特定の時間やその推移及び特定の空間やその広がりの中で生起することを踏まえ、時間的・空間的な比較や関連付けなどにより捉えられるよう指導を工夫すること。

③ 諸資料の活用と関係諸機関との連携について（3 内容の取扱い(1)のウ）

年表や地図、その他の資料を積極的に活用し、文化遺産、博物館やその他の資料館などの施設を調査・見学したりするなど、具体的に学ぶよう指導を工夫すること。その際、歴史に関わる諸資料を整理・保存することの意味や意義に気付くようにすること。また、科目の内容に関係する専門家や関係諸機関などとの円滑な連携・協働を図り、社会との関わりを意識した指導を工夫すること。

④ 活用する資料の選択について（3 内容の取扱い(1)のエ）

活用する資料の選択に際しては、生徒の興味・関心、学校や地域の実態などに十分配慮して行うこと。

⑤ 近現代の学習について（3 内容の取扱い(1)のオ）

近現代史の指導に当たっては、客観的かつ公正な資料に基づいて、事実の正確な理解に導くとともに、多面的・多角的に考察し公正に判断する能力を育成すること。その際、核兵器などの脅威に着目させ、戦争や紛争などを防止し、平和で民主的な国際社会を実現することが重要な課題であることを認識するよう指導を工夫すること。

⑥ 「歴史総合」との関連について（3 内容の取扱い(1)のカ）

近現代史の指導に当たっては、「歴史総合」の学習の成果を踏まえ、より発展的に学習できるよう留意すること。

(6) Q&A

イ 総説

Q 1 総合科目と探究科目を履修させる場合の順序性について、どのような点に留意すればよいか。

探究科目は、総合科目の履修が成立した後でなければ履修できない。すなわち「地理探究」は「地理総合」の履修が成立した後、「日本史探究」及び「世界史探究」は「歴史総合」の履修が成立した後でなければ履修することができない。

Q 2 今回の改訂で新設された各科目について、増単して履修させることは可能か。

「地理総合」及び「歴史総合」は標準単位2単位、「地理探究」、「日本史探究」及び「世界史探究」については標準単位3単位として設定されているが、履修させるに当たっては学校の実情や生徒の実態などを踏まえて、単位を増加することは可能である。

Q 3 総合科目や探究科目を増単の上、分割して履修させることは可能か。

可能であるが、分割した、いずれかの学年の履修が成立しない場合には、当該科目の履修が成立しないことや、必修科目である総合科目の履修が成立しない場合には、当該科目の履修を前提とする探究科目を履修することができないことについて、生徒や保護者に事前に十分に説明し理解を得ることが必要である。

ロ 地理総合

Q 1 従前の「地理A」との関連性はどのようになっているか。

「地理A」は標準単位数2単位の選択科目であったのに対し、「地理総合」は標準単位数2単位の必修科目である。「地理総合」については、「歴史総合」と相互補完的な役割を果たしながら地理歴史科の目標を達成し、「学びの地図」の一端を担うため、持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察することに加えて、グローバルな視座から国際理解や国際協力の在り方を、地域的な視座から防災などの諸課題への対応を考察することと、地図や地理情報システムなどを用いることで、汎用的で実践的な地理的技能を習得することの三点を科目の主要な特徴として構成する。

Q 2 中学校社会科との関連性はどのようになっているか。

「地理総合」は、中学校社会科の学習の成果の上に立って、高等学校生徒の発達段階を考慮して設置された科目であり、特に中学校社会科地理的分野との関連が深い。よって、既習内容を踏まえた適切な対応が必要である。また、地理的分野とともに、同じく社会的事象を学習の対象とする歴史的分野及び公民的分野についても、そこでの学習を前提として「地理総合」の内容は構成されており、必要に応じてそれらの内容を振り返り、関連を図りながら、指導内容の工夫を図る必要がある。

Q 3 大項目の内容や構成はどのようになっているか。また、どのようなねらいで作られているか。

大項目Aでは現代世界を捉えるための地理的技能の習得を、大項目Bでは現代世界の多様性や諸課題に関する理解を、大項目Cでは我が国の持続可能な社会づくりに関する地理的認識を、それぞれ主な学習内容としている。また、大項目Cは、大項目A及び大項目Bの学習の成果を踏まえ、国内外の防災や生活圏の地理的な課題を主な学習対象とし、地域性を踏まえた課題解決に向けた取組の在り方を構想する学習などを通して、持続可能な地域づくりを展望することを主なねらいとしている。

Q 4 「社会的事象の地理的な見方・考え方」とはどのようなものか

今回の改訂においては、全ての教科等を学ぶ本質的な意義を、各教科等の特質に応じた「見方・考え

方」として整理した。このことに関わっては、平成 21 年度改訂時に「高等学校学習指導要領解説 地理歴史編」の中で、「地理的な見方や考え方」について整理したことを基本的に今回改定においてもその趣旨を引き継いでいる。

「地理的な見方」の基本

どこに、どのようなものが、どのように広がっているのか、諸事象を位置や空間的な広がりとのかかわりでもとらえ、地理的事象として見いだすこと。また、そうした地理的事象にはどのような空間的な規則性や傾向性がみられるか、地理的事象を距離や空間的な配置に留意してとらえること。

「地理的な考え方」の基本

そうした地理的事象がなぜそこでそのようにみられるのか、また、なぜそのように分布したり移り変わったりするのか、地理的事象やその空間的な配置、秩序などを成り立たせている背景や要因を、地域という枠組みの中で、地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目して追究し、とらえること。

Q5 「主題」や「問い」を中心に構成する授業を展開する際の留意点は何か。

「社会的事象の地理的な見方・考え方」を働かせ、鍛えるためには、それを促す学習場面の設定が必要であり、そのためには生徒自身が社会的事象を多面的・多角的に考察し、表現する中で、「社会的事象の地理的な見方・考え方」を働かせることができるような、適切な「主題」や「問い」が前提となる。すなわち、社会の情報化、グローバル化に伴い、日々膨大な数の事象が生まれては消えていく中で、それらの名称や仕組みを単に覚えるのではなく、選び出した真に必要な事象を基に、位置や空間的な広がりに着目して、その事象がそこにある意味や意義を見だし、追究するような学習活動を重ねることは、「社会的事象の地理的な見方・考え方」を働かせ、鍛えることに他ならない。各校においては生徒や学校などの実態を踏まえて適切な「主題」とそれに応じた「問い」を立て、それらを中心に構成した学習活動の実施が求められる。

ハ 歴史総合

Q1 従前の「日本史A」「日本史B」「世界史A」「世界史B」との関連性はどのようなものか。

「歴史総合」は、地理歴史科の中に設けられた標準単位数2単位の必修教科目である。近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中における日本を広く相互的な視野から捉え、資料を活用しながら歴史の学び方を習得し、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察、構想する科目として、今回の改訂において新たに設置された。

また、「地理総合」と相互補完的な役割を果たしながら地理歴史科の目標を達成するとともに、「世界史A」、「日本史A」が近現代史を中心に扱い、相互に日本の歴史との関連付けや世界史的な視野に立って学ぶことを重視してきたことや、「世界史B」、「日本史B」が歴史的な思考力の育成を重視してきたことなど、従前の歴史領域の科目のねらいを総合的に踏まえて設置された科目である。

Q2 中学校社会科との関連性はどのようなものか。

内容の取扱い(1)のアでは、「中学校までの学習との連続性に留意して諸事象を取り上げることにより、生徒が興味・関心をもって近現代の歴史を学習できるよう指導を工夫すること。その際、近現代の歴史の変化を大観して理解し、考察、表現できるようにすることに指導の重点を置き、個別の事象のみの理解にとどまることのないよう留意すること」としている。

Q3 「歴史総合」「日本史探究」「世界史探究」における改善・充実のための要点の1つである「社会的事象の歴史的な見方・考え方」とはどのようなものか。

「社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付け」て働かせる際の「視点や方法(考え方)」であると整理した。すなわち、時期、年

代、時代など時系列に関わる視点、展開、変化、継続など 諸事象の推移に関わる視点、類似、差異、多様性、地域性など諸事象の比較に関わる視点、背景、原因、結果、影響、関係性、相互依存性など事象相互のつながりに関わる視点、現在とのつながりなどに着目して、比較したり、関連させたりして社会的事象を捉えることとして整理したものである。

Q4 大項目D「グローバル化と私たち」の指導計画上の取扱いにおける留意点は何か。

この大項目では、科学技術の革新を背景に人・商品・資本・情報等が国境を越えて一層流動するようになり、人々の生活と社会の在り方が変化したことを扱い、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉えて考察し、現代的な諸課題の形成に関わるグローバル化の歴史を理解できるようにするとともに、考察、構想して探究し、現代的な諸課題を理解できるようにすることをねらいとしている。

また、最後の中項目「(4)現代的な諸課題の形成と展望」は、この科目のまとめとして位置付けられている。

これまでの学習を踏まえ、持続可能な社会の実現を視野に入れ、生徒が自ら主題を設定して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、現代的な諸課題を理解することをねらいとしている。

Q5 「日本史探究」における「主題」や「問い」を中心に構成する授業を展開する際の留意点は何か。

「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を生徒が働かせ、鍛えるためにはそれを促す学習場面の設定が必要であり、そのためには生徒自身が社会的事象を多面的・多角的に考察し、表現する中で、「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を働かせることができるような、適切な「主題」や「問い」の設定が前提となる。歴史に関わる事象は数多く存在する。それらを単に記憶するのではなく、事象の意味や意義を見だし、学習のねらいを明確にして、課題を追究する学習の構成を図ることが求められる。

二 地理探究

Q1 「地理総合」との関連性はどのようなものか。

「地理総合」を履修した後に選択科目である「地理探究」を履修すること。

Q2 従前の「地理B」との関連性はどのようなものか

「地理B」は標準単位数4単位の選択科目であったのに対し、「地理探究」は標準単位数3単位の選択科目である。「地理探究」については、「地理総合」の学習を前提に、地理の学びを一層深め、生徒一人一人が「生涯にわたって探究を深める」その端緒となるよう、系統的学習、地誌的学習を行う各大項目の学習によって地理学の体系や成果を踏まえた上で、最後に我が国の地理的な諸課題を探究する大項目を設けて科目のまとめとして構成することとした。

Q3 大項目の内容や構成はどのようにになっているか。また、どのようなねらいで作られているか。

大項目Aでは現代世界における地理的な諸事象の規則性や傾向性の理解を、大項目Bでは現代世界の諸地域の構造や変容の理解を、大項目Cでは現代世界におけるこれからの日本に求められる国土像に関する地理的認識を、それぞれ主な学習内容としている。また、大項目Cは、大項目A及び大項目Bの学習成果を踏まえ、現代世界における日本の国土を主な学習対象とし、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方を構想する学習などを通して、持続可能な国土像を探究することを主なねらいとしている。このねらいを達成するため、大項目Cは一つの中項目で構成されており、この科目のまとめとして位置付けることとしている。

Q4 「地理探究」で「主題」や「問い」を中心に構成する授業を展開する際の留意点は何か。

「地理総合」と同様に「地理探究」においても、「社会的事象の地理的な見方・考え方」を働かせ、

鍛えるためには、「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開が必要である。「地理探究」では、定まった答えのない課題を対象に試行錯誤を重ねながら探究する活動を通して、日本の将来を担う生徒自身が、我が国が抱える地理的な課題の解決の方向性を、批判的思考力を働かせて議論するなどの活動によって、在るべき国土像を見いだそうとすることを求めている。そのため、生徒が地理的な知識を確実なものにするとともに、地球規模から地域規模までの様々な規模の空間認識を深めるためにも、適宜適切に主題や問いを設定して、新たな国土像の在り方を探究し、創造する力を育むことが期待される。この一連の学習活動によって、地球的環境が大きく変化しつつある現代世界の中で、在るべき国づくりや地域づくりを考察し、その実現を阻害する課題を発見する力や課題を解決する力を確実に身に付けられるよう適切な学習場面と時間の確保が求められる。

ホ 日本史探究

Q1 「歴史総合」との関連性はどのようなものか。

「日本史探究」は、「歴史総合」の学習によって身に付けた資質・能力を基に、我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、現代の日本の課題を探究する科目である。

また、内容の取扱いの(1)のイでは、「中学校までの学習や「歴史総合」の学習との連続性に留意して諸事象を取り上げることにより、生徒が興味・関心をもって我が国の歴史の展開を学習できるよう工夫すること」、さらにカでは、「近現代史の指導に当たっては、「歴史総合」の学習の成果を踏まえ、より発展的に学習できるよう留意すること」としている。

履修に関しては、「歴史総合」を履修した後に選択科目である「日本史探究」を履修することができる。

Q2 従前の「日本史A」「日本史B」との関連性はどのようなものか。

「日本史探究」については、「歴史総合」を踏まえ、従前の「日本史A」、「日本史B」のねらいを発展的に継承しつつ、我が国の歴史の展開について総合的な理解を深め、各時代の展開に関わる概念等を活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し、地域や日本、世界の歴史の関わりを踏まえ、現代の日本の諸課題とその展望を探究する力を養うことをねらいとして設置された科目である。

Q3 大項目D「近現代の地域・日本と世界」の指導計画上の取扱いにおける留意点は何か。

この大項目では、「歴史総合」の学習を踏まえた、世界の情勢の変化とそこにおける日本の相互の関係や、日本の近現代の歴史を、多面的・多角的に考察し理解すること、それらを踏まえて、現代の日本の課題を考察、構想することをねらいとしている。また、高等学校の歴史学習のまとめとして、歴史に関わる諸事象相互の関係性や、地域と日本、世界との関係性などを整理して構造的に理解すること、さらに現代の日本の諸課題について多面的・多角的に考察して理解するとともに、歴史的経緯や根拠を踏まえて構想することをねらいとしている。

そのため、最後の中項目「(4)現代の日本の課題の探究」では、これまでの学習を踏まえ、この科目のまとめとして、現代の日本の課題の形成に関わる歴史について、生徒の生活や生活空間、地域社会との関わりを踏まえた主題を設定して、よりよい社会の実現を視野に多面的・多角的に考察し、歴史的な経緯や根拠を踏まえた展望を構想して、その結果を表現する学習を行う学習が求められる。

Q4 「日本史探究」で「主題」や「問い」を中心に構成する授業を展開する際の留意点は何か。

「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を働かせ、鍛えるためには、「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開が必要である。「日本史探究」では、大項目AからDまでの(1)には、生徒がその

後の学習 への見直しをもつための「時代を通観する問い」を表現する学習、(3)には主題を設定し、それを踏まえた課題(問い)を設定して展開する学習、大項目Dの(4)には、生徒が現代の日本の諸課題とその展望について、自ら主題を設定して、考察、構想する学習を示している。解説中にはその具体的な事例を示しているが、各校においては生徒や学校などの実態を踏まえて適切な「主題」やそれに基づく「問い」を立て、それらを中心に構成した学習活動の実施が求められる。

へ 世界史探究

Q1 従前の「世界史A」「世界史B」との関連性はどのようなものか。

「世界史探究」は、「歴史総合」の学習を踏まえ、従前の「世界史A」、「世界史B」のねらいを発展的に継承しつつ、諸地域の歴史的特質の形成、諸地域の交流・再編、諸地域の結合・変容という構成に沿って、世界の歴史の大きな枠組みと展開について理解を深め、地球世界の課題とその展望を探究する力を養うことをねらいとして設置された科目である。

Q2 「歴史総合」との関連性はどのようなものか。

「世界史探究」は、「歴史総合」の学習によって身に付けた資質・能力を基に、世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、事象の意味や意義、特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、地球世界の課題を探究する科目である。

また、内容の取扱い(1)のアでは、「中学校までの学習や「歴史総合」の学習の連続性に留意して諸事情を取り上げることにより、生徒が興味・関心をもって世界の歴史を学習できるよう指導を工夫すること、さらにカでは、「近現代史の指導に当たっては、「歴史総合」の学習を踏まえ、より発展的に学習できるよう留意すること」としている。

履修に関しては、「歴史総合」を履修した後に選択科目である「世界史探究」を履修することができる。

Q3 大項目E「地球世界の到来」の指導計画上の取扱いにおける留意点は何か。

大項目E「地球世界の課題」は、諸資料を比較したり、関連付けたりして読み解き、探究する活動を通して、歴史的に形成された地球世界の課題を理解することをねらいとしている。

そこで、最後の中項目「(4)地球世界の課題の探究」では、「世界史探究」の学習の総まとめとして、生徒がこれまでに習得した知識や技能を活用して主体的に探究し、その成果を発表したり討論したりするなどの活動を通して、歴史的経緯を踏まえた地球世界の課題を理解することをねらいとしている。そのため、「歴史総合」の学習を踏まえ、全時代の学習を通して習得した知識や技能を活用することが求められる。

そのために「(1)国際機構の形成と平和への模索」、「(2)経済のグローバル化と格差の是正」、「(3)科学技術の高度化と知識基盤社会」で学習した事項を参考にして、持続可能な社会の実現を視野に入れ、「地球世界の課題の形成に関わる」主題について、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、多面的・多角的に考察、構想して探究し、地球世界の課題を理解することをねらいとしている。

Q4 「世界史探究」における「主題」や「問い」を中心に構成する授業を展開する際の留意点は何か。

「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を働かせ、鍛えるためには、「主題」や、「問い」を中心に構成する学習の展開が必要である。多様な地域の歴史や諸地域間の相互依存関係の変化などを学習する世界の歴史を、世界の大きな枠組みと展開において捉えるために、事象の意味や意義、特色などを見だし、学習のねらいを明確にして、課題を追究する学習の構成を図ることが求められる